鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

第66号　H23．10．28

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

希望

一学年主任　石谷　洋一

8月に入ってすぐ、福島県いわき市に行く機会を得た。

いわき市は事故のあった原子力発電所からおよそ30ｋｍの距離にあり、風評被害により物資の流通が滞り、店の商品が無くなった様子がニュースで報じられたことなどでその地名を覚えている人もいることだろう。東側に太平洋を望み、3月11日の震災で津波により甚大な被害を受け、一ヶ月後の4月11日の大地震で建物や道路にさらに大きな被害を受けた所である。

いわき市に滞在している間に、支援物資の仕分け、運搬等の作業を手伝わせていただいた。被災された方々と接する中で、改めて多くのことを考えさせられた。感謝の言葉を掛けてくださる人々のためにこれから何ができるのだろうか。これから自分は何をなすべきなのだろうかと。

ボランティア終了後、自分の仕事を辞め被災者のために毎日作業に従事されている方が、津波被害が深刻な海沿いの地区を車で案内してくださった。基礎部分しかない集合住宅跡、大きくえぐられた新築の住宅、横たわった看板と鉄骨のみが残る金融機関、鉄の固まりとなった無数の自動車、壊れた防波堤。そして、瓦礫の撤去をされている人々の姿。出発時にはそこで目にする光景を記録に留め、地域の現状をどこかで伝えることができればとも考えていたのだが、写真を撮ることはもちろん、車から降りることさえできなかった。現地の様子を目の当たりにし、あまりの状況に言葉を失い、動くことができなかったのである。

店舗が津波被害を受けたコンビニエンスストアの駐車場には、移動販売車で営業を続けるこの店の人の姿があった。住民がほとんどいなくなった場所での営業は、多くの収益は望めないかもしれないが、地域の復興と、希望の持てる明日を願う気持ちの表れなのだろう。一日も早く店が再興し、人々の笑顔で溢れることを願わずにはいられなかった。

翌朝、以前勤務していた郡山市（福島県）の高校周辺を歩いてみた。この高校では、地震による被害で校舎が使えなくなり、グラウンドに仮設校舎が建てられていた。また、この辺りは、高い放射線量に不安を抱えており、隣にある小学校では、削り取られた土砂が隅に山積みされていた。報道されていた光景が、まさに現実として目の前に広がっていたのである。

未曾有の災害といわれる東日本大震災。復興にはこれから長い歳月がかかるだろう。その中心となるのが君たち高校生であることは間違いない。「For Others」の精神とは、他人のために尽くすことであり、自分をも大きく成長させてくれるものである。諸君には、今回の震災を遠い地域のこととしてとらえるのではなく、これからの時代を担う一人としてしっかりと受け止め、それぞれの立場でなすべき役割を果たしてくれることを期待している。

最後に、被災地の復興と原発事故の一日も早い収束を心から祈念します。

第63回文化祭（10月8日）

麟鶴爛舞
―紡ぎ響けよ碧霄の銀風―

前期生徒会　文化局局長
21R　福原幸之将

今年も放送部の「からいも標準語講座」で幕を開けた文化祭。様々な部活動がステージ発表で観客を魅了した。校内展示でも、部活動の日頃の熱心な活動ぶりが随所に見られ、非常に見ごたえのあるものだった。東日本大震災の現状を鹿児島にいる私たちに訴え、私たちの声を被災地に届けようと素晴らしい歌声を響かせた22R。鶴丸生とは、「For Others」とは何かを模索する姿を描いた28R。メッセージ性の高い今年のクラスステージは、私たちの日常を改めて考えさせるものだった。校内展示では、日頃の学習の成果を活かしたものから、身近な物事を新たな観点から見つめ直したものまで内容はバラエティ豊かで、クラスの団結力が大いに感じられた。また、観客を大いに沸かせた、寸劇や職員合唱、飛び上がるほどに会場を熱気に包んだ生徒有志の団体なくして、今文化祭の大団円を迎えることはできなかっただろう。

このような今年の文化祭に、僕は運営する側として携わることになった。文化局局長の肩書のもと、文化祭当日は勿論、それまでの準備も運営側として動いた。約半年の準備期間。一つの行事を完成させるための、長くて複雑、時に緻密さを要する作業は、経験しなければ知りえないものだった。小・中学校、そして鶴丸で、これまで経験してきた行事の裏には、多くの人の努力があり、苦心があったのだということも実感した。

今年の文化祭も、同じく多くの方の苦心のもとに成功を迎えた。生徒会としても、未熟で頼りない局長一人では到底成し得なかった成功である。局長を支えてくれた補佐二人、困った時や迷った時に励まし応援してくださった先輩方や同級生、準備から本番まで尽力してくださった先生方、文化祭に携わったすべての方々に、心から感謝したい。

学年PTA

10月17日（月）、第1学年・第2学年の学年PTAが開かれた。講演会では河合塾福岡校の秦利勝先生が「大学入試と卒業後を見据えて」というテーマで、センター試験や大学教育の変化について分かりやすく教えて下さった。先生が挙げて下さった、変化に対応し、社会で求められる人材になるための条件には、学校で常々指導を受けたり、生徒諸君同士が話し合ったりすることと共通する点が多かった。是非、家庭で改めて確認してほしい。

全体会終了後は各教室で学級ＰＴＡが開かれ、クラスの現状や文理選択や修学旅行について等、様々な話題で交流が行われた。

平成23年度後期生徒総会

10月19日（水）、生徒総会が開かれた。総会では、生徒会の半年間の活動報告・会計報告がなされ、特別議案では、「鶴丸生のモラル」について議論を重ね、どのような鶴丸高校を創り、どのような鶴丸生であるべきかという問題について、考えた。

また、次期生徒会長選挙では、28R山口舞さんが「よりよい方向への変革」を掲げて立候補し、一人ひとりの意識が大事と、全員で創造する生徒会活動の意義を訴え、翌日の投票で信任された。生徒全員による活発な活動の実現を期待したい。

東京大学進学講演会 in 鹿児島

10月22日（土）、東京大学大学院総合文化研究科の石浦章一先生をお招きして、東京大学進学講演会が開かれた。当日、県内各高校から集まったおよそ二百名の高校生に、先生は、東京大学の概要からご自身の研究内容、学ぶことの楽しさ、さらに今後求められる人材について、分かりやすく話してくださった。生徒からは、「今まで目指していた学部以外にも興味がわき、自分の進路について考え直すきっかけとなった。」「色々な角度から物事を見てみるきっかけをいただいた。」「科学者は研究室にこもりきりで仕事をするのかと思っていたが、そうではなかった。科学者と一般市民とをつなぐ役を果たす、サイエンスインタープリターにも興味がわいた。」「東大で求められる人材（何かの才能がある人、ではなく、様々なことに興味を抱き、熱心に取り組むことができる人）が印象に残った。日頃から色々なところに目を向け、疑問を持ち、その疑問の解決に努める姿勢を大事にしたい」との感想があり、今後の進路選択へ向けての大変有意義な時間となった。

本校では、東京大学教養学部主催の「高校生のための金曜特別講座」も受講できるようになっている。学問研究の面白さや重要な点が分かりやすく解説されており、参加した生徒たちは毎回たいへん刺激を受けている。今後も、多くの生徒たちにぜひ参加してもらいたい。

これからの金曜講座案内

11月4日　弱者の目から見た世界
―中東キリスト教の歴史から

11月11日　放射線の科学《放射線物理学》

11月18日　放射線の科学《環境放射化学・放射線生物学》

12月2日　音楽史と作品
―楽曲はどのように「音楽史を構成する要素」となるのか

12月16日　水の同位体からわかる地球水循環の様子とその変遷

１１月の行事予定

11		
1	火	**文化講演会**
2	水	3年実力考査時間割発表 校内研修（進路） ロードレース大会前健康診断
3	㊍	文化の日
4	金	
5	㊏	悠学講座⑥ 3年進研マーク
6	㊐	3年進研マーク
7	月	学年朝会
8	火	スクールカウンセリング 職員研修
9	水	
10	木	**3年実力考査（1日目）**学校安全の日 九州地区国語教育研究大会（本校）
11	金	**3年実力考査（2日目）** **ロードレース大会**
12	㊏	
13	㊐	第2回英検二次試験
14	月	全校朝会 集団読書（1，2年）
15	火	スクールカウンセリング
16	水	
17	木	
18	金	中掃除
19	㊏	悠学講座⑦
20	㊐	
21	月	学年朝会 卒業考査・中間考査時間割発表
22	火	スクールカウンセリング
23	㊌	勤労感謝の日
24	木	
25	金	
26	㊏	
27	㊐	
28	月	卒業考査（1日目） 進路検討会（～12/2）
29	火	卒業考査（2日目） 中間考査（1日目）
30	水	卒業考査（3日目） 中間考査（2日目）

かごしまの教育県民週間
教員相互授業参観週間
定期教育相談
5分短縮授業